為石小学校の合言葉 「ためし 最高！ ～ 地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども ～」

←HPを登録してください。

学校だより

ためし

○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える

令和6年5月13日号
文責 上久木田雄二

置かれた場所で咲きなさい

修道女でもある故渡辺和子さんが出版した同名著の有名な言葉です。

この言葉は、英語の「Bloom where God has planted you.」という言葉に感銘を受けた著者が日本語にしたものだと言われています。

私は、この言葉を聞いて、奥ゆかしさや忍耐・自制心を美徳とする日本人の心にマッチする言葉だと感じました。

私の経験からも、子どもたちに道徳を教えるとき、この言葉の精神を土台に、言葉かけをしてきたように思います。

著書の中には次のような説明も加えられています。

> 置かれた場所に不平不満を持ち、他人の出方で幸せになったり不幸せになったりしては、環境の奴隷でしかない。
> 人間として生まれたからには、どんなところに置かれても、そこで環境の主人となり自分の花を咲かせよう。（渡辺和子 幻冬舎）

この美しい心と言葉に、私は勇気をもらいます。そういえば私の母も「与えられた環境の中で100%の力を出すこと」を良く話していました。

私はもう少し奥まで考えを巡らせたいのです。日本人の謙虚さや我慢強さ・秩序を保つ勤勉さを否定するつもりはありません。

置かれた場所で咲くことは、環境を甘んじて受け入れ、その中でしか生きることを許されないという意味ではないと思うのです。

置かれた場所だから、その中だけで自分の幸せを見つけなければならないという閉塞感ありきの考え方ではないように思うのです。

置かれた場所だからと言って、ずっと抜け出せない暗いトンネルを命尽きるまで歩まなければいけないという切迫感を求めているのではないと思うのです。

自分の花を咲かせるには、努力や工夫は必要です。花を咲かせるための、水分や栄養は、自分自身が準備しなければならないということです。

置かれた場所だからと人任せになり、決断も判断もせず、安穏と日々を送るだけでは、花は咲くはずがありません。

渡辺さんの「環境の主人」という意味は、まさにこの主体性を示しているものだと私は思っています。

自分の人生ですから、他人任せにせず、自分事として捉え、ものごとと向き合うことの大切さを教えてくれているように思っています。

学校は子どもたちを自立と自律の道へと導く場所です。学習をとおして、人生の岐路に立った時の判断力を身に付けさせる場所です。

だから、学校は厳しくもあり険しくもある勉学に挑ませるのです。